

2024.4.17

# NPOフォーラム だより No.110



NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄、池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

**会員・寄付募集中！** 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円  
(ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム)



## ◆ 安房大神宮の森コモンプロジェクト ◆ ..⇒ 詳細は中面

安房神社周辺の大神宮の森に、風力発電開発業者の買収の動きがあり、これを阻止するために、昨年未から融資を受けて 55ha の土地を購入し、古道や水源・集落跡や棚田などを再生する山林整備活動が始まっています。この森を共有財産（コモン）として未来に継承しようと提言し、壮大なプロジェクトを主宰する高田宏臣さんは環境土木の専門家で、「館山市森づくり大使」に任命された方です。

NPO 法人安房文化遺産フォーラムでは、かつて布良の森（安房自然村）で遊歩道を整備し、癒しの里づくりに取り組みましたが、令和元年台風の直撃被害などの諸事情が重なり、活動を断念した経緯があります。しかし、さらなる遠大な理念をもつプロフェッショナル集団が立ち上げた取り組みに共感し、私たちも協働させていただくことになりました。

今年度は「大神宮の森 風土・歴史フォーラム」を定期的に関き、プロジェクトの進捗報告と、安房の歴史文化を紹介する連続講座を共催します。会場が狭いため関係者のみ参加となりますが、オンライン配信がありますので、ぜひご視聴ください。後日、アーカイブを視聴することも可能です。

### 第1回 大神宮の森 風土・歴史フォーラム

**4月27日（土）10:00～12:00** <関係者のみ会場：館山野鳥の森多目的ホール>

\* 安房大神宮の森コモンプロジェクト構想と活動報告

高田宏臣（館山市森づくり大使・一般社団法人環境土木研究所 代表・株式会社森と海 共同代表）

\* 館山まるごと博物館講座① ～逆さ地図から見る安房の地

愛沢伸雄・池田恵美子（NPO 法人安房文化遺産フォーラム共同代表）

\* 鼎談・質疑応答

※ **オンライン視聴について** ⇒ Peatix というシステムからお申し込みください。 ▶QR  
NPO ホームページの「お知らせ」からも開けます。

参加無料ですが、活動資金を応援するドネーション（寄付）つきチケットもあります。  
申込方法が分からない方は、事務局までお問合せください。



# 安房大神宮コモンプロジェクトへの想い

高田宏臣（安房大神宮の森コモンプロジェクト 代表）

## 土地はいつきの預かりもの

大神宮の広大な土地を私は融資を受けて購入すれども、「所有する」考えはありません。預かり、育み、そして未来に手渡す。いわば「いつきの預かりもの」という思いで、取得します。

預かりものという感覚は、日本人だけでなく、土地とともに生きてきた敬虔な世界中の先住民たちが、当たり前を持ち合わせてきた思いでありましょう。それがそれぞれの風土と文化を育み、美しく豊かで柔軟な国土の根幹となってきたのではないのでしょうか。

## いのちの源の恩恵を忘れた現代人

山河はその地域の暮らしの根本であり、いのちの源であります。自然の恵みと直結した自給的な暮らしから遠く離れた現代、多くの人がこのことを忘れてしまったかもしれません。現代の土地の活用、それに伴

う広大な地形の改変は今や奥山にも及ぶようになりました。

風土環境の意味を読み取らぬまま、故郷の山を削るなど無造作に地形を改変してしまえば、長い間地域の暮らしを守り支え続けてきた風土の加護も、恩恵も失われてしまいます。

ここ10年ほどで急速に進んだ太陽光・風力発電設備の開発は奥山にも及び、その動きは止まりません。急速にいのちの源が破壊される現状を目の当たりにし、激しく心を痛めてきました。

荒廃した奥山で住処を奪われた野生動物は、いよいよ絶滅の危機に瀕しています。相次ぐ熊の駆除に関する報道は、社会をさらに暗く、そしてますます自然と人との分断を深めているのではないのでしょうか。

環境の荒廃はそのまま人間の心も体も蝕んでいるようです。子どもの自死願望も統計上でさえ、ここ数年急速に増え続け、最多を更新し続けております。

コロナ禍のせい、といわれることもありますが、私は、人が生きものとして道を見失ってしまった、人間社会の叫びに感じられてなりません。

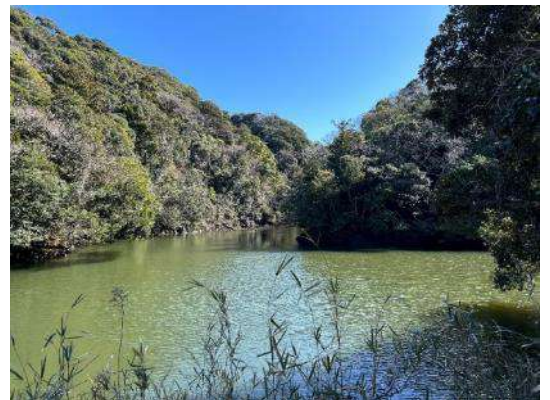
## 大神宮の土地との出会い

そんな中、今年の夏のこと、大神宮の土地周辺に、風力発電開発業者が買収のために動き始めていることを知った翌日、この山に赴き、地元の賛同者とともにこの土地を取得することを決意したのでした。

「大神宮」という地名の通り、もともとは<sup>あわのくに</sup>安房国一の宮である安房神社の御神域であり、地域の暮らしを支える大切な山域として安房神社に仕えてきた御師たちが代々暮らし、守ってきた山域です。この地の暮らしの営みは少なくとも数千年に及び、今も山の中には無数の段々畑や棚田の跡、集落や道の跡がやぶに埋もれて残っているのです。



明治初期の迅速図。  
赤線でなぞった道を復活予定



いきもののサンクチュアリ

房総半島南端の館山市と南房総市(白浜町)の市境に広がる山域は、何十年も人が入っていない。海沿いの国道410号の建設以前から、神戸-根本-布良-神余を往来する山道が縦横無尽にあった。山奥には水源があり、かつての集落や棚田の痕跡がある。長い間放置され、令和元年台風で倒れたままの木々を伐り開き、崩落した路肩を補強する。けもの道を塞がないように気をつけながら、古道や湧水を整備再生していく。豊かな森がよみがえる。100年先の未来に手渡そう。



この痕跡をたどり、かつての道や水場、集落跡や棚田を再生し、豊かだったこの地の営みを数十年かけて取り戻したいと願い、動き始めました。

無論、私一代で終えるものではない取り組みであり、生きていく間にどこまでできるかわかりません。しかし、風土の再生の希望の道筋をつけることくらいはできるかもしれません。

人間が壊してしまった大地は、人間の手で再び豊かに取り戻し、あまねく生きもののいのちを育み、その恩恵を受けて人もまた心身ともに健康を取り戻す。やがて大地に、次世代にお返りする。ここでやることは当たり前前の営みを現代に取り戻すことに尽きるのかもしれない。

### 海へとつながる環境の再生を

大神宮の急峻な山々が育む豊かな水は、無数の谷津田の水源となり、麓の暮らしを

支えてきました。山が蓄えた水は周辺の水域にも豊富な海底湧水をもたらし、豊かな漁場を支えてきたのでした。

ところが、日本有数の漁場であった南房総のリアス式海岸も近年、「磯枯れ」と呼ばれる海の砂漠化が進行しています。大神宮の麓、布良漁港も今や魚影が消え、漁業者もまたいなくなりました。それもここ数十年のことなのです。

海と繋がるこの山域を豊かに再生し、土地とともにあった環境を痛めない土木の技によって、かつての風土を取り戻す。それが再び海を美しくすることでしょう。

それこそ50年後かもしれませんが、布良漁港の火が灯る光景を夢見ております。

### 山の英気を体感する場として

長い間、私は山登りを続けてまいりました。神気溢れる深い山と一体になり、ひたすら歩くことで、いのちの世界の呼び声に

応えるように、感謝と喜びに包まれます。それを知るものにとって、常に山は立ち返るべき心の拠り所となることでしょう。

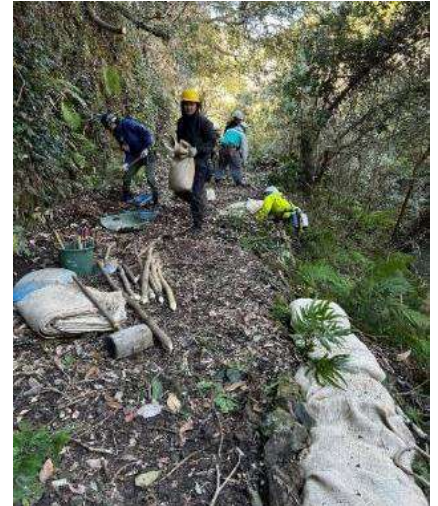
古来、どれだけ多くの人たちの魂が、豊かな山の息吹に救われてきたことでしょう。

この山域の再生は、まずは古道をたどり、かつての道の再生普請から始めます。多くの人たちと、そのプロセスから体感を共有したいと思います。

そして、その道を歩くことで人が健康な心身を取り戻し、生き方への目覚めと気づきの場になるのでは、との希望に溢れております。

風土の豊かさを取り戻す、その過程で人として、生きものとしての大切な有り様に気づき、それが現代の閉塞を乗り越え、未来につながる希望と明るさを取り戻す一隅の光となることを望んでおります。

「地球守通信」2023年12月号より転載



携帯電波も届かない山中で、荒れた森を整備しながら、五感が研ぎ澄まされていく。山と里の行き来から得られる気づき。自然の中で身体感覚を開く体験は、大きな喜びを得られる学び。満点の星空の下、峰々に囲まれた山中での野営。ミミズクの声や動物たちの足音に耳を澄ませ、静かで賑やかな一夜はなんと贅沢。

## ◆ 第 82 回 知恵袋講座

◎ 知恵袋講座は、NPO メンバーが講師となって、楽しく学び語り合う茶話会です。

5月25日(土) 13:30~16:00 豊津ホール 参加費：会員 200 円・非会員 500 円(茶菓子・資料つき)

「安房地域の図書館史と文化振興に寄与した医師たち」 語り手：関 和美

病院図書館の司書である関さんは仕事柄、安房の医療や図書館の歴史に関心をもち、調査研究を進めてきた。安房には、館山病院の穂坂与明や川名正義はじめ、文化活動を熱心におこなった医師が多い。なかでも、関さんが注目する鴨川出身の医師・原進一は、安房医師会長や警察医をつとめたばかりでなく、鴨川文化協会長や鴨川町立図書館長などを歴任している。ほかにも彫刻家の長谷川昂と親交が深く、画家・横山大観の主治医でもあったという。今回は、図書館のあゆみと医師たちが展開した文化活動に関する調査報告をする。

## ◆ 当面のスタディツアーガイドスケジュール

5/11(土) 15:00~17:00 中央学院大学 6名：座学

12(日) 8:30~15:00 // : フィールドワーク

5/31(金) 10:00~16:00 NPO 法人くにたち夢ファーム 13名：かにた婦人の村・大蔵院

新入生のオリエンテーション合宿。  
今年は少人数のため、NPO会員の  
オブザーバー参加も可。

## ◆ 出張講演「エコミュージアム・館山まると博物館」(共同代表：池田恵美子)

エコミュージアムとは 1970 年代のフランスで提唱された概念で、「地域全体を博物館と捉え、有形無形の多様な地域資源に対して、住民が主体となって調査研究・保全・展示・教育などの活動をおこなう、まちづくり手法」のことである。NPO フォーラムでは、1990 年代から進めた戦争遺跡や里見氏稲村城跡の保存運動を母体とし、2004 年の法人設立時より「館山まると博物館」を活動理念としている。

### ① 豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会 総会 5月19日(日) @愛知県豊川市

愛知県豊川市では、市民による豊川海軍工廠跡地保存運動 22 年の成果が実り、市によって「豊川海軍工廠平和公園」が 2018 年に開園した。名古屋大学宇宙地球環境研究所の構内に残る当時の建物(火薬庫・信管置場) 2 棟を修復保存し、平和学習のための資料館も併設されている。同年夏、戦争遺跡保存全国シンポジウム豊川大会が開催された。

### ② シンポジウム：沖縄陸軍病院南風原壕のこれから 7月14日(日) @沖縄県南風原町

1990 年に戦争遺跡として全国第一号の文化財指定となり、2007 年に一般公開が始まった「沖縄陸軍病院南風原壕」は 13 万人以上が訪問。南風原文化センターには、壕を模したレプリカが館内に再現され、老病者でも安全に体験できるようにするとともに、戦中・戦後・移民などに関して充実した資料展示され、平和学習の工夫がされている。1998 年と 2010 年に、第 2 回と第 14 回戦争遺跡全国シンポジウム南風原大会が開催された。

## Report

チョン・イルジ

### NPO フォーラム理事の 鄭一止さん(熊本県立大学准教授)が来訪

韓国馬山出身のエコミュージアム研究者。東京大学大学院に留学時、「館山まると博物館」を対象とした調査研究で博士論文を上梓。「日中韓青少年歴史体験キャンプ in 南房総」の通訳をはじめ、日韓交流の架け橋として NPO 活動に貢献。2016 年より理事就任。2017 年より熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学専攻都市計画研究室 准教授着任。

今回の館山来訪は、日米・日韓などの国際交流を展開する「館山まると博物館」の広域エコミュージアム活動の事例調査が目的という。新たな論文発表に乞うご期待!



NPO 理事：松井啓悟・愛沢香苗・愛沢伸雄・上田敦子・鄭一止・池田恵美子・片方義明